

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(~~認知症対応型共同生活介護事業所~~ ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホーム 日吉 A棟	評価実施年月日	2008年8月27日
評価実施構成員氏名	後藤 さとみ ・ 高際 美津子 ・ 山崎 久美子 ・ 材木谷 若菜 ・ 三木田 典子 ・ 青木 千早 ・ 長内 嘉子		
記録者氏名	後藤 さとみ	記録年月日	2008年7月15日～7月30日

北海道保健福祉部福祉局介護保険課

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	地域密着を考えた理念に変更はしていない。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	すべての職員が、ホームの運営理念を述べることができ、常に運営理念の実現に取り組んでいる。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	ホームの運営理念を利用案内時の説明文書及びホームの見やすいところに明示し、かつ、入居者及びその家族等に分かりやすく説明している。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	町内の回覧板を入居者と回覧する様努めている。近所の子供たちが通ったときや、お祭りの御神輿など気軽に挨拶や、声を掛け合っている環境づくりを心がけている。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	町内会の地域清掃や、老人クラブの月例会への参加、地域の小学校との交流(運動会、学習発表会の見学など)を持っている。	
6	○事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	運営推進会議を通して町内会、老人クラブへの情報提供を行っている。地域へのAEDの設置、SOSの家の協力体制を設けている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	<p>前回の外部評価で実施できていなかったことに関し(環境など)出来る部分から改善していくように努めている。</p>	
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>	<p>2月に1回の運営推進会議において限られた時間の中で2ヶ月間の取り組みについて報告しアドバイスを頂いている。</p>	
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	<p>苫小牧市役所、保健所等随時情報交換及び相談しサービスの適正や向上出来るようにしている。</p>	
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>	<p>今現在地域権利擁護を必要としている入居者が居ない為積極的には学んでいないが管理者は研修会などに出席し学ぶ機会を持っている。</p>	<p>○</p> <p>地域権利擁護について理解を含め必要時に提供できる様に取り組んでいけるようにしたい。 スタッフにおいてもカンファレンスや内部研修などで学んでいくようにしたい。</p>
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない要注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>管理者及びスタッフ同士常に意見交換している。カンファレンスの中でも議題とし検討する機会を持っている。</p>	
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約時には口頭説明及び契約書等をお読みいただく時間をもち同意を得ている。入居後の変更・追加などの契約については家族会や説明会などを設け説明を行っている。説明会などに参加されていない方についても文章説明後電話等にて口頭説明をさせていただいています。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>13 ○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>常に入居されている方たちと同じ視線に立つようし、随時意見を聞くように心がけている。本人が表現できない場合や、直接職員に伝えられないと感じるときは家族にお聞きしたり、職員が交代で本人の気持ちを汲み取るように心がけている。</p>		
<p>14 ○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。</p>	<p>御家族の面会時に日常の状況報告をしている。生活状況は広報や電話にて報告させていただき、金銭に関しては金銭出納帳のコピーの送付にて使用金額のお知らせを行っている。体調の変化等に関しては電話連絡をし、今後の対応をともに考えている。</p>		
<p>15 ○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>家族会、運営推進会議、面会時に率直にお聞きするように心がけている。</p>		
<p>16 ○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>特に設けてはいないが行事ごとの立案など入居者の意見を反映できるように運営者や管理者に提案している</p>	○	カンファレンス等を利用しお互いに提案・改善等話し合いを設けていける機会を作っていきたい
<p>17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。</p>	<p>状況に応じて職員の人数、勤務時間の変更を行っている。常日のカンファレンス等でも問題がないか職員全員の意見を持ち寄り検討している。</p>		
<p>18 ○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	<p>平屋の特性を生かし常に職員や入居者も行き来し、顔見知りの状態を心がけている。普段の状態でも変化があれば昼夜問わず2ユニット協力体制を持ちながら行っている。移動した職員が少しでも早く状況に慣れるようにフォローしている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)	
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	勤務に支障が無い程度にホーム内外の研修の場を提供している。ホーム内研修は各職員が疑問や研修したいことを持ち寄り係りを決め勉強会を行っている。	○	今年度は与えられる研修から自発的な研修へと変わってきたが職員が今以上積極的にディスカッション出来る研修にしていきたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	苫小牧市内のGH連絡会の研修会や、各サービス事業所が行う研修会等に参加できるように心がけている。	○	職員と共に市内のGH等の見学に行ける機会を作りたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	今年度より有給も利用しながら1週間程度のリフレッシュ休暇を取れるようにしている。		
22	○向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	管理者はじめ介護スタッフの勤務状況等の把握には努めているも、各自の向上心を高めるところまでには至っていないです。	○	現状以上に、やりがいや向上心を持ってもらえるよう、研修や待遇面も含めて検討していきたいです。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	入居の相談時には出きるだけ本人にも見学に来ていただき不安を解消していただけるように心がけている。入居後は慣れるまで入居時に係わった職員がフォローしながら徐々に慣れていただき生活しやすいよう常に本人の気持ちに答えられるよう心がけている。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	本人同様、御家族の不安や、悩みを一緒に共有しながら本人の生活をにサポートできるように心がけている。特に面会時には相談していただけるように時間をとるようにしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	GHの入所の相談に来られる御家族、本人に状況をお聞きした上でサービスの提案、相談にのるように心がけている。(待機者には特に入所にいたるまでの提案も含め)		
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	本人、家族に常に聞きながらサービス提供に努めている。本人が慣れてきた頃でも本人、家族の要望を受け止めながらサービスが行えているかなど相談、確認をするように心がけている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	食事作り、裁縫、買い物など本人の特技や特性を生かせる様に共に行動するように心がけている。季節の行事も取り入れながら一緒に楽しむ。一線を引いた立場ではなく、共に聞いてほしい事など話し合える相手がいる。	○	全員同じ気持ちになることは難しいが一緒に生活し、信頼できる関係を築いていきたい。
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	面会時には御本人の状況を伝え出来るだけ一緒に会話し笑い合えるようにしている。	○	御家族からスタッフへ気軽に話しかけてくれることが多くなっている。
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	情報提供をする上で低下してきている現状の話もするが、御家族の気持ちを少しでも楽に出来る様な本人の言動も伝え負担にならないように心がけている。職員も御家族に気軽に話が出来、気さくに立ち寄れる環境づくりを心がけている。年賀状は息子さん、娘さんに本人の手書きの字で一言書いて頂きだすように支援している。		
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	本人の希望があれば手紙や、電話など出来るように心がけている。出かけたときには、なじみの場所も通るようにしている。特に年賀状に関しては出せる様に支援している。GHに入居前の施設等には時々本人と一緒に訪問させていただくこともあり。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	入居者の方同士のトラブルの際には入居者の特性を把握しながらスタッフが中に入り両者に誤解が生じないように助言している。職員が利用者とは会話するときは利用者複数名で話し過ごすよう心がけている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	昨年の6月以来退去された方はいない。	○	退去者が出たときには関係を断ち切らない様にしていきたい。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の希望に出来るだけ添えるようにしているが希望に添えないときはなっとき出来る様に説明をしている。お互いの納得行くかたちで約束事とし決めている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	日常会話の中において常に把握出来るように努めている。収集できたことに関しては御家族、職員共に共有出来る様に心がけている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	入居時には家族や支援事業所より情報収集をすると共に受診時や日常のバイタルチェック及健康管理(食事量、飲水量、排便状況、体重測定等)において把握するよう心がけている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	本人の言葉や家族の意向を聞きながら、カンファレンスや引継時などにおいても職員間は常に話しあいをしている、	○	御家族がカンファレンスへ参加出来る機会を設けていない為介護計画書の変更時などには一緒にケース会議等にも参加をしていただけるように配慮していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	その都度の変化に応じて職員間で話し合い本人や、家族へ説明の元対応している。御家族には特に予測される事に関しては事前に相談するようにしている。		
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	タイムリーな記録と各職員がに思った事、工夫、結果も記入し介護計画に盛り込むように心がけている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	特に無し。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	ボランティアによる催し、地域小学校への古紙回収、ベルマーク等の協力している。		
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	本人御家族の要望をお聞きした上でその時々にあった生活場所の提供を行っている。(特別養護老人ホーム及び老人保健施設等)		
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	本人御家族の要望をお聞きした上でその時々にあった生活場所の提供(特別養護老人ホーム及び老人保健施設等)及び地域の包括支援センターとの連携を心がけている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>43 ○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>健康管理等も含め定期通院及び随時受診を行っている。検査結果等御家族が心配されていることなどに関してもドクターへ相談し御家族に状況説明をタイムリーで行うようにしている。</p>		
<p>44 ○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。</p>	<p>随時相談出きるように心がけている。(直接医師との相談や、MSWを通して)定期的に御家族にも同行受診をしていただき、一緒に状況を把握できるようにしている。</p>		
<p>45 ○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>	<p>協力医療機関の看護師等に相談しながら、アドバイスをいただき、日々のケアに活用している。</p>	○	9月より医療連携を行う予定。今後相談していきたい。
<p>46 ○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。</p>	<p>入院時はGHでの生活状況の提供をしている。入院後は本人の精神、身体、病状に応じて柔軟に対応している。</p>		
<p>47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。</p>	<p>御家族には面会時に今後予測される状況も含め常に話し合いを持つようにしている。医師ともその時々状況において相談させていただいている。職員とも常日頃状況に応じ話し合っているが終末期に関して具体的に方針の共有はしていない。</p>	○	御家族、本人の要望を聞きながら柔軟に対応していきたいとは思っているが具体的な話を共有できるようにしていきたい。
<p>48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	<p>現在の体制の中で当ホームとして出来ることは職員間では共有している。だが、チームとしての支援は出来ていないです。</p>	○	終末期に関しては今後の課題

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
49 ○住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	入居の際は、入居前の生活暦の聞き取りをし、またホームの現状や入居以来知り得た情報をケア内容・プラン等へ反映し提供することで理解いただく努力をしています。	○	住み替えが必要になった入居者がした場合混乱無く生活できる様に支援していきたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重			
50 ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	個人情報の取り扱いに関して書類の持ち出しを禁止している。本人の気持ちに反した言葉を使用しないように職員全員で気をつけている。カンファレンス等でも話し合いを設けている。		
51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	日常生活において必ず本人の意見を確認し出来るだけ本人の希望に近づける様に努めている。(その日に着る洋服や、寝る時間など)		
52 ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	業務を優先するのではなく各個人のペースに合わせられるように心がけている。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	訪問美容師の方も増えているが入居者一人一人にお聞きし、理美容院を決めカット、パーマ、顔そりなど決めている。		
54 ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	得意分野を生かしながら生活の意欲に繋がるように一緒に行動している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	本人の意向を出きるだけ聞き入れるようにしているが、飲酒などに関しては服薬の関係もあり、御家族とも相談の上、昼間の行事時に(誕生日やバーベキュー、新、忘年会等)して頂くよう約束している。外食行事などでも本人の嗜好を考慮している。		
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	日々アセスメントし排泄パターン、習慣を把握しプライバシーの配慮をしながら支援している。汚染で不快な思いをされないように誘導、交換を行っている。排便についても排便パターンの把握をしながら医師との相談し処方指示内で(排便の状況をみながら)下剤の調整を行っている。		
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入浴したいという気持ちになって頂ける様な声掛けをしたり、楽しみとなるような状況作り、気持ちよかったと思っていただけるように配慮している。希望者の夜間入浴も行って見たが普段入りなれていない為体がほとり就寝に影響があり行っていない。	○	1週間に2回は入浴出来るようにしているが季節的に足りないと思う。検討していきたい。
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	その日の体調や生活ペースの状態を見ながら声をかけ休息していただいたり、体温調整の配慮などを行い安眠できるよう心がけている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	体調、気分、状態を見ながら調理、片付け、洗濯物干しやたたみ等日々の日課を行っていただいている。年間の行事や出かける場所、天気の良いときの過ごし方など入居者の意見を聞きながら毎日を過ごせるようにしている。		
60 ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	金銭管理が可能な方は居室に小銭程度のお金を所持されている。御家族より1万円程度をお預かりし、本人の必要なものを出きるだけ一緒に外出し購入するようにしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	天候の良い日に日光浴や花畑への水遣り、散歩等入居者に合わせた外出を実施している。介護保険の更新手続きに関しても可能な限り本人と一緒に行くようにしている。 ホームの中にはもあり両棟合同で外での食事も取り入れている。	○	今後より一層、外出の機会を多くしていきたい。
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	皆様の希望を聞き入れ、年間行事(市外へいちご狩りなど)にて実施している。		
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	要望があった際には、事務所内電話を利用。また居室内に電話を置き、使用されている入居者もいます。		
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	夜、玄関施錠後もインターホンで対応し、時間を問わず面会を出来るよう対応している。		
(4) 安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	ホーム内研修にて、各職員と話し合いを持ちながら確認し合い、取り組み中です。		
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	日中、全て鍵はかけないケアを実践している。ホーム玄関の自動ドアも昨年よりフリーにしています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	昼夜問わず、随時利用者の所在や様子を意識しながらケアにあたっている。特に夜間は1時間毎の巡回を実施している。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	針やはさみなどは本人の心身状況を踏まえた対応(声かけや保管場所の検討等)を実施している。	○	居間やトイレ等共有部分に設置しているハンドソープ等誤飲の恐れがあるものに関しては、全入居者の状況を見ながら、臨機応変に対応していきたい。
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	日々の介護を通して、取り組んではいるが、本人の行動が予測つかない場合もある。ヒヤリハット・事故報告書の検討は事があった時点で、随時確認あっている。	○	再発防止も含めて、今後も年1回は消防署の職員の協力を得て定期研修を行なっていきたい。
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	緊急時対応マニュアルや個別ファイルの作成し、日々備えている。年1回消防署職員を要請して、救急救命の訓練を実施している。	○	再発防止も含めて、今後も年1回は消防署の職員の協力を得て定期研修を行なっていきたい。
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	年2回、消防署・利用者・職員とともに防火避難訓練を実施している。	○	運営推進会議の場で、町内会長をはじめ家族の方々との連携体制を確認し始めている段階であり、順次体制を整えていきたい。
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	転倒など事故等の可能性があることを入居者の家族に説明をし、随時ケアの方向性を話し合いをしている。ホーム側より貸し出しをしている福祉用具等についても使用時のリスクの話も含め話し合いを持っている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	スタッフ間での口頭報告連絡は密にしている。また記録にも詳しく残している。		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬の説明書はあるがスタッフ全員が副作用等正しく理解してはいない現状である。処方していただいている薬局の薬剤師に相談することもあり。薬のセット日を決め飲み忘れがないようにチェック表を作成し利用している。	○	薬の内容書を確認するようにし、また飲み忘れ等が無い様にチェック表も作成し利用しているが全員で強化できるように具体的に考えていきたい。
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かさず働きかけに取り組んでいる。	飲水を出来るだけその方に合った方法(声かけや嗜好を考えながら)で対応している。食事やおやつにおいても繊維質の物、乳製品等も利用し常に意識を持っている。		
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食後の口腔清拭等個別にあった支援を実践している。1週間に1度(水曜日)に地域の歯科医の往診により口腔ケアの指導及び治療を行っていただいている。		
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	飲水を出来るだけその方に合った方法(声かけや嗜好を考えながら)で対応している。おいしく食べやすく見えるような盛り付け、形態を心がけている。		
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	研修として勉強会に参加後、全スタッフで予防及び対応の確認をしている。		
79 ○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	調理用具は殺菌消毒し、調理前には手洗いやグローブ等も利用しながら対応。生鮮食材は常に冷蔵保存にて対応。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1)居心地のよい環境づくり			
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関前の花壇の整備を入居者様と職員と共に考えてながら工夫している。自由に入出入りができるように自動ドアをフリーにし、玄関ドアの周辺には椅子を設置している。	
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居間などに季節に応じた飾りつけなどスタッフ担当を決めて行なっている。	
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ソファを共有部に数箇所置き、入居者様が居場所を選択できる工夫をしている。	
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	本人に使い慣れている家具や日用品を自由に持ち込んでもらい、本人・家族にも意向を随時確認をしている。	
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	居室の空気の入替えを行なっている。また、温度計を確認しつつ、入居者に随時確認をしながら快適な室温になるよう心がけている。	
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	本人の身体機能を活かし、支援が必要な場面に必要な支援を心がけて行なっている。(声かけしながら)	

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>86</p> <p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>日々出来ることを、出来る時に、理解しやすい言葉で無理なく行なえるような声かけに心掛けている。</p>		
<p>87</p> <p>○建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>玄関前の花壇や裏庭等での畑作りや散歩は随時スタッフと共に行なっている。</p>		

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<ul style="list-style-type: none"> ① 毎日ある ② 数日に1回程度ある ③ たまにある ④ ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての家族 ② 家族の2/3くらい ③ 家族の1/3くらい ④ ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ毎日のように ② 数日に1回程度 ③ たまに ④ ほとんどない

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p>	<p>①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p>	<p>①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p>	<p>①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p>	<p>①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)